



「望ましい学びの場を求めて」 ～日々のコーディネートから～

大館市立第一中学校 教諭 大澤 修

1 はじめに

最近、通常学級にも A D H D であったり、広汎性発達障害であったり「何々障害」と言われる生徒が多くなり、実際に薬を服用している生徒もいる。また、中学校においても授業中に落ち着かず、勝手に言葉を発したり、休み時間にトラブルを繰り返したりする生徒もいる。そして「この子にあった安心して学べる場ってどんな所だろう?」と考えさせられることも少なくない。そこで、「生徒の見立てと学びの場」、「ユニバーサルデザインと学びの場」の2つの視点から考えてみることにした。

2 生徒の見立てと学びの場

(1) いろいろな視点からとらえた見立ての必要性

- ① 本人の困り感、自己理解度、自己肯定感
- ② 保護者の考え方、気持ち、家庭での様子
- ③ 医学的診断、アドバイス
- ④ 学校での生活ぶり、周囲との関係
- ⑤ 各種アセスメント
- ⑥ 総合的な検討

など

(2) 合理的配慮と学びの場

- ① 人的な支援が可能か
※教員・支援員の人数
- ② 施設面での支援が可能か
※部屋の確保、エレベーター
- ③ 指導面での支援が可能か
※個別の対応
- ④ 教材、教具での支援が可能か

など

***最優先は → 本人**

<例：学級のアセスメント>

※学級の全体像を把握する

No.	氏名	性別	住	生年月日	又	普	出	日第	等	一次支援										二次支援					
										下注		多動	衝動	聞く	話す	静か	計算	中自己	け手	一方	意	漫	廣	動作	通
										入	出	入	出	入	出	入	出	入	出	入	出				
1		男																		●					
2		男							●								●			●					
3		男																●		●					
4		男		●															●						
5		男							●	●								●							
6		男		●														●		●					

3 ユニバーサルデザインと学びの場

(1) ユニバーサルデザインの教育支援とは？

- ① 特別な支援を必要とする子どもには、「なくては困るもの」
- ② 他の子どもにとどても、「あれば助かるもの」

(2) なぜ、ユニバーサルデザイン？

- ① 学校生活のほとんどが授業
- ② 学校生活のほとんどが学級集団
- ③ 個別の指導の限界

(3) ユニバーサルデザインって？

- ① 従来の行われてきた教育支援（特別支援教育的なアプローチも含む）
- ② ちょっと新たな教育的視点

(4) 新たな教育的視点のヒントはどこに？

- ① 学力の上がりづらい子どもに
- ② 落ち着かず、話の聞けない子どもに
- ③ できないことを認めるところに
- ④ 一つの考え方には偏らない、固執しないところに

(5) ちょっと新たな教育的視点

- ① 分からない生徒は、どんなに分かりやすく説明しても（1人では）分からぬ。
※協同学習のすすめ→友達、教材、自分、それぞれとの対話（言語活動）
- ② 大きな声の説明は、理解につながっていない。
※学びは言葉を探しにくることから始まる
- ③ できないことを怒っても改善されない。※育っていないのだから
- ④ 怒られながらの指導は入らない。
- ⑤ 動機付けの興奮は、失敗のもとになる。
- ⑥ 無視することも支援になる。（ほめるチャンスを待つ）
- ⑦ 全員の生徒が1回の話で分かることはない。
※友達、先生に聞いても大丈夫
- ⑧ できないところより、できるところを刺激する。
- ⑨ 視覚と短い話で伝えたい。

などなど

4 おわりに ※安心して生活し、学べる学級、学校作りへの構え

- (1) 一番困っているのは本人 … 大人が先に困っていては、本人を支援できない。
- (2) 行動には必ず、理由や意味が … 行動だけでは、本人を分かることはできない。
- (3) 認めてほめる … 認められてこそ、ほめられてこそ、自ら動機を高められる。
- (4) まず学級・学校、そして、それぞれの場所 … 学校の中で、合理的配慮を探る。
- (5) 時間や物事の流れの力も … 人の力だけでは育たない。
- (6) 半分の真実 … 生徒を支援する時「～しなければならない」「～でなければならぬ」と「～である」は、必ずしもその時すべてが正解ではない。隣だったり、裏側だったり、もう一つの物語があるかもしれない。